

江戸川区消防団運営委員会議事録 要約

開催日時	令和4年8月4日（木曜日） 開会：13時29分 ～ 閉会：14時15分
開催場所	江戸川区役所5階 災害対策本部室
諮問事項	「大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか」
出席者 (19名)	委員長 齊藤 猛 委員 宇田川聡史 (都議会議員) 田の上いくこ (都議会議員) 上田令子 (都議会議員) 小野瀬二郎 (江戸川防火防災協会会長) 宇田川清 (葛西防火防災協会会長) 松下幸博 (小岩防火防災協会会長) 田島寛之 (区議会議員) 岩田将和 (区議会議員) 所隆宏 (区議会議員) 太田公弘 (区議会議員) 中山隆仁 (区議会議員) 大橋美枝子 (区議会議員) 野呂瀬亮一 (江戸川消防署長) 黒崎清貴 (葛西消防署長) 石澤幸洋 (小岩消防署長) 渡邊辰雄 (江戸川消防団長) 関口政男 (葛西消防団長) 村瀬光一 (小岩消防団長)
傍聴者数	1人
配付資料	審議資料 (別紙のとおり)
次第	1 開会 2 委員長挨拶 3 新委員の紹介 4 議事 諮問について 「大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか」 5 その他 (1) 江戸川区内消防団の現況 (2) 江戸川区内災害の状況 6 閉会

審 議 内 容	<p>4 議 事 諮問について</p> <p>「大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか」</p>
	<p>事務局</p> <p>○審議資料についての説明</p> <p>○今後検討する課題の抽出について説明 ※資料2を参照</p> <p>○課題に対する具体的な提言について説明 ※資料4を参照</p>
	<p>委 員</p> <p>消防団本部、分団本部にモバイルルーターと端末装置が配置されており、団員間でのメールやチャットはLINE WORKS を使用しているが、団員個人の端末に直接連絡するツールとして使うというのは難しいのか。</p>
	<p>事務局</p> <p>LINE WORKS での禁止事項として、このタブレットを使った個人へのLINE はしないということになっている。団員に対しての緊急連絡については、緊急伝達システムがあり、そちらでやりとりをするようにしている。</p>
	<p>委 員</p> <p>別のシステムがあるということで、緊急の場合はそちらを使うということだが、モバイルルーターやタブレットは活用されていると認識しているのか。</p>
	<p>事務局</p> <p>現時点では分団本部に行かなければ Wi-Fi を活用できないというところがあるが、各団員への連絡については、個人のスマホあるいは携帯に緊急伝達システムという形で伝達ができるので、支障はない。</p>
	<p>委 員</p> <p>訓練や教育についても、コロナ禍ということも鑑みると、今後は団員それぞれの端末で、自宅で受けるということになるだろうかと思う。そういった際も、個人との連絡というのが必要ではないか。今後、環境を整えていった際に、必要なことや、不足があった、改善していったほうがいいということがあったら、教えていただきたい。</p>
	<p>事務局</p> <p>わかりました。</p>

委員

スマホなどで連絡は取れるという回答は理解したが、パソコン端末を一人ひとりの方に配る対応も必要かなと考えている。その辺の今後の見通しというか、何かお考えがあれば聞かせていただきたい。

また、停電時の端末の電源確保についてもう一度確認したい。

事務局

初めの質問について、各団員に対してパソコンを配置していく予定は現在のところない。今後、そういったものが配置できるように答申案の中に組み込んで提言していきたい。

二つ目の非常時の電源確保について、各分団本部には発動発電機が非常用に置いてある。それに加えて、ソーラー充電ができる蓄電バッテリーも各消防団、分団本部に配置するということも、今後の答申案の中に組み込んで上げていきたい。

委員

大規模災害団員制度について教えてほしい。

事務局

大地震や大規模な水害の時に活動していただく団員制度となっており、災害活動経験等を有する方や、消防職員や消防団員の経験者、それから、災害活動で活用できる知識や技術を有する方を対象にしている。報酬は通常の消防団員と同一となっており、階級については団員、または班長という階級でお願いをしている。具体的な活動の任務は、情報収集、避難誘導、消火活動、救助活動、水防活動などとしている。給貸与品については、通常の活動服、保安帽、防火服、防火帽などを用意している。

委員

現状、大規模団員制度ということで登録されている方はいるのか。

事務局

江戸川消防団での大規模災害団員については、現在3名となっている。

委員

各種デジタルツールを持っていても、個々の団員がそれを使いこなすまでにかかなりの苦労があるのではないかと考えているが、どのように普遍的に体得をしていただくのか伺いたい。

そもそも消防団員の方たちが果たしてデジタルツールが欲しいとおっしゃっていたのかと非常に思っている。ああして欲しい、こうして欲しいという個々のアイデアを実は団員はたくさんお持ちだと思うが、遠慮されて、なかなか直接お声が上がっていないように思う。団員が欲しいものや団員が考えているもの、これをどういう形で直接汲み上げて形にしているのか、されていくのかということをお伺いしたい。

事務局

まずはデジタルツールを消防団員の方が有効にお使いになれるかどうかというところだが、新入団員教育や消防学校での研修などを通して、従来型の消防団員指導は継続しているため、そちらで補える。その中でデジタルツールの活用方法にも徐々に慣れていただいて、お使いになれるようにしていけばいいのかなと感じている。

具体的なデジタルツールの導入についての意見は、まだ多くはない。その中で、区内3消防団の団員に対して要望のアンケート調査を実施した。その内容について説明する。まず、「長距離ホース延長の負担軽減に効果的な資機材は何か」ということで、電動アシスト付きホース延長台車 76件、キャスター付きホースバッグ 43件、ホース背負い器具 18件という結果となり、やはり電動アシスト付きのホース延長台車がいいのではないかという意見が入っている。次に「長時間大量放水が可能な効果的な資機材は」ということで、台座付きの放水銃が 105件、それから軽可搬ポンプが欲しいというものが 31件入っている。また、現行の放水のノズルについて要望があったのが、放水開閉コックノズルが 95件で、今の放水ノズルのような左右に回すことによって水が出るタイプではなく、消防隊が使っているようなコックの1動作で放水できるタイプが欲しいという意見が多く出ている。それから、搬送資機材に効果的な資機材ということで、電動の搬送台車などが 94件入っている。このように省力化、電動化というものが団員からの多くの意見となっているので、こういった資機材を導入してもらえるように答申をしていきたいと考えている。

委員

大規模災害時におけるマンパワーの確保について、地域ごとの消防団、消防力だけでは到底対応は不可能だと思う。やはり地域を越えた消防団の応援出動というものを検討すべきだと思うが、例えば、江戸川区内の消防団員が、隣の葛飾区や江東区で消防団員として活動する、任務にあたるということは、ルール上は可能なのか。

事務局

他の区域において活動することができるかどうかという点について、居住地もしくは勤務地で活動することが可能なので、江戸川管内に住んでいて、例えば葛飾区の本田消防署管内で勤務していれば、本田消防署管内での活動は可能である。また、消防団の広域派遣については、消防署長と消防団長が協議をし、消防方面本部長に要請をする。方面本部長を通じて、広域派遣をする他所の消防署長、消防団長に応援の要請があれば、分団を越えた区域での活動も可能となっている。

人員確保のための募集活動についてはなかなか苦慮しているところだが、例えば地域の専門学校、大学、地元企業の協力を得て体験入団の導入を図り、若い世代の団員確保と組織の活性化のための方策を見出し、活動力の向上を図っていきたいと考えている。地域の災害時支援ボランティアや小学生、中学生、高校生で構成されている消防少年団の子どもたちにつ

いても、ゆくゆくは消防団に入っていけるように、総合防災教育の中で指導し、育てていけばいいのかなと考えている。また、江戸川消防署では江戸川消防団員募集強化月間を設け、消防署の行事に合わせ、四半期に1回以上の声掛けを実施している。他にも、江戸川消防団事務局では江戸川消防団充足率向上委員会を設置し、江戸川区役所でパンフレット配布及び希望者への入団説明を実施している。令和3年度から5年度において、団員充足率90%以上の達成を初期目標として取り組んでいるところである。令和4年4月1日の充足率を下回らないようにしつつ、入団促進及び退団への対策強化を図っていきたいと考えている。

5 その他

事務局

(江戸川区内消防団の現況・江戸川区内火災・救助等災害状況の説明)